

経済連情報 3

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2025. 3
● NO.1326

JA静岡経済連の令和7年度機構改編について 静岡県産みかんの消費拡大へ 令和6年度県下統一宣伝事業について

Main topics

- JA静岡経済連の令和7年度機構改編について … 01
- 静岡県産みかんの消費拡大へ令和6年度県下統一宣伝事業について … 02

topics&news

- 静岡の貯蔵ミカンをPR
大臣賞受賞の貯蔵ミカンを県知事に贈呈 …… 03
- なし・イチジク受賞者を表彰
落葉果樹品評会の表彰式を開催 …… 03
- 「静岡いちご」の認知向上へ
首都圏で「静岡いちご」消費宣伝を実施 …… 03
- 日本最大規模の花の展覧会
第73回関東東海花の展覧会 …… 04
- 県産食材の認知向上へ
食材提案会に本会ブースを出展 …… 04
- 東京都内で県産農産物をPR
静岡県産直マルシェを開催 …… 04
- 流通開発課の取組を紹介
「ごちそうカントリー」番組収録と放送 …… 05
- 県産和栗の生産拡大へ
クリ技術員養成研修会を開催 …… 05
- 栽培技術向上のために
第45回静岡県中晩生柑橘品評会 …… 06
- 産地の課題解決へ
産官学技術交流事業報告会 …… 06

お知らせ

- 営農資材課からのお知らせ …… 07
- 営農支援だより
隔年結果対策について …… 08

お知らせ

- 「駿府の肉処 静岡そだち」からのお知らせ …… 09
- 「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 …… 10
- キャラバン隊活動報告 …… 10



▲「ごちそうカントリー」の番組収録と放送



▲大相撲初場所で土俵を周回する「静岡みかん」懸賞旗

JA静岡経済連の 令和7年度 機構改編について

1 はじめに

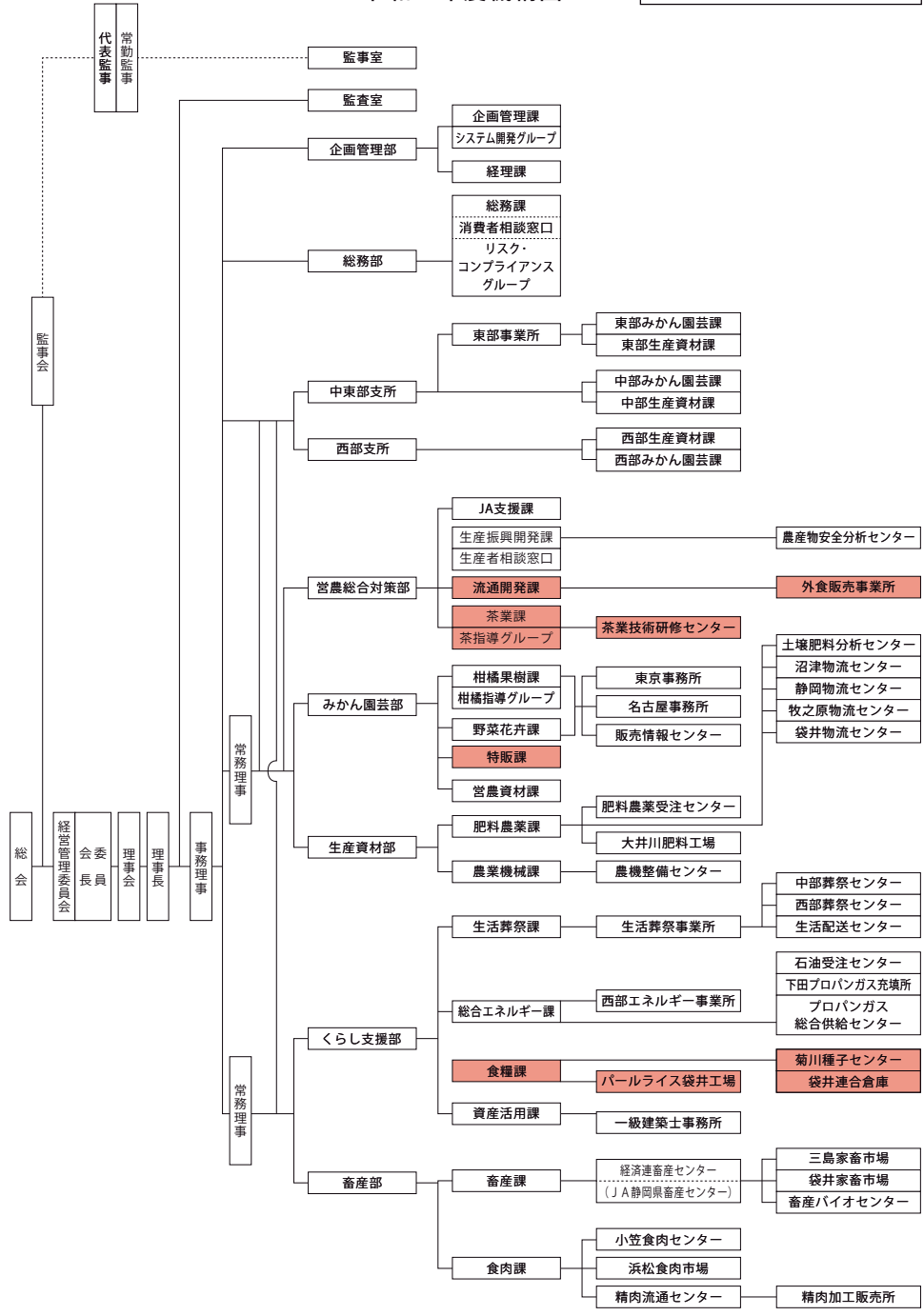
令和7年度は、「JA静岡3か年計画」スタートの年であり、計画の着実な実践に加え早期の成果が求められます。そのため、本会の経営状況を踏まえた体制整備を行うとともに、農業生産基盤およびJA経営基盤の強化・確立を目的に、関連部署が連携し本会の総合力を強化した機構改編を実施します。

II 機構改編の内容

- 1 廃止する部署
 - ① 「生活葬祭課」の配下にある「セレモニア佐久間」を廃止します。
- 2 廃止および業務を移管する部署
 - ① 「人事教育課」を廃止し、業務を総務課に移管します。
- 3 廃止および配置変更する部署
 - ① 「茶業部」を廃止し、配下にある「茶業課」を「営農総合対策部」に配置変更します。
 - ② 「営業部」を廃止し、配下にある「流通開発課」を「営農総合対策部」に配置変更します。

令和7年度機構図

2室、7部、19課、2支所



- ③ 「食糧課」を「暮らし支援部」に配置変更します。
- ④ 配置変更および所管を変更する部署
 - ① 廃止する「食糧部」の配下にある部」に、「特販課」を「みかん園芸部」に配置変更します。
 - ② 「食糧部」を廃止し、配下にある「食糧課」を「暮らし支援部」に配置変更します。

「パールライス袋井工場」を「暮らし支援部」に配置変更するとともに「食糧課」の配下に変更します。本会以上の機構改編を実施し、令和7年4月1日より2室7部19課2支所の体制となります。

静岡県産みかんの消費拡大へ

令和6年度県下統一宣伝事業について

I 県下統一宣伝事業について

静岡県経済連柑橘委員会(事務局: 柑橘果樹課)では、県内の柑橘産地が一体となった県下統一宣伝事業を実施し、全国の消費者へ向けて「静岡県産みかん」をPRしていきます。

令和6年度は、1月12日～26日に東京・両国国技館で行われた大相撲初場所の開催に合わせたプロモーションを展開しました。大相撲とのコラボは昨年引き続き2年連続で、県内出身力士の熱海富士関と翠富士関

を応援するため、幕内の取組前に懸賞旗を掲出しました。

II JR両国駅

両国国技館の最寄り駅、JR両国駅構内では、初場所の開催期間に合わせて「静岡県産みかん」の大型広告を掲出しました。また、1月18日、19日、25日、26日の4日間に分けて、両国駅利用者へ無料配布イベントを実施し、約8000個のみかんが配布されました。

III 「静岡県産みかん」インスタグラムを開設

昨年11月に新たに開設した「JA静岡経済連静岡県産みかん」の公式インスタグラムでは、「みかんと相撲」をテーマにしたフォトキャンペーンを実施し、応募者の中から抽選で選ばれた30人へ「静岡県産みかん」5kgをプレゼントしました。

また、公式HP「静岡県産みかんスペシャルサイト」のリニューアルも実施し、情報発信の強化を図って

います。

IV おわりに

今回は、令和6年度の「静岡県産みかん」の県下統一宣伝事業についてご紹介しました。静岡県経済連柑橘委員会では、引き続き「静岡県産みかん」の認知拡大や販売強化の取組を実践し、有利販売と農家所得の向上に取り組んでまいります。



▲静岡県産みかんスペシャルサイトはこちら

問い合わせ先

●静岡県経済連柑橘委員会
事務局・みかん園芸部柑橘果樹課
電話: 054-284-9912



▲初場所で土俵を周回する懸賞旗



▲両国駅で掲出されたビジュアル広告

静岡の貯蔵ミカンをPR
大臣賞受賞の貯蔵ミカン
を県知事に贈呈

静岡県経済連柑橘委員会(事務局：柑橘果樹課)は1月31日、「第59回静岡県貯蔵ミカン品評会」の上位入賞者とともに静岡市葵区の静岡県庁を訪れ、貯蔵ミカンを鈴木康友県知事へ贈呈しました。贈呈したミカンは最高位となる農林水産大臣賞を受賞した石倉健さん(JAふじ伊豆)のミカン。贈呈式には石倉さんの他高橋誠さん(JAみつかび)、西川雅祥さん(JA静岡市)、杉山行宏さん(JAとびあ浜松)、同委員会の森田能正委員長ら役員が出席しました。石倉さんら出席者は鈴木知事へ今年度の作柄や生育状況などを報告しました。



なし・イチジク受賞者を表彰
落葉果樹品評会の表彰式
を開催

静岡県落葉果樹振興協会(事務局：柑橘果樹課)は2月5日、県農業会館で、なし・イチジクの各品評会上位入賞者の表彰式を開催し、生産者とJA担当者ら20人が出席しました。同協会の会長を務める本会の山下昌徳常務理事と県農業振興課中田篤志課長代理、県農林技術研究所果樹研究センター伊藤直樹センター長がなし品評会金賞の飯島正道さん(JAふじ伊豆)、イチジク品評会金賞の富田浪樹さん(JA遠州中央)ら上位入賞者へ表彰状を授与しました。また、表彰式に併せて、同センター果樹加工技術科の種石始弘科長が果樹の栽培管理について記念講演を行いました。



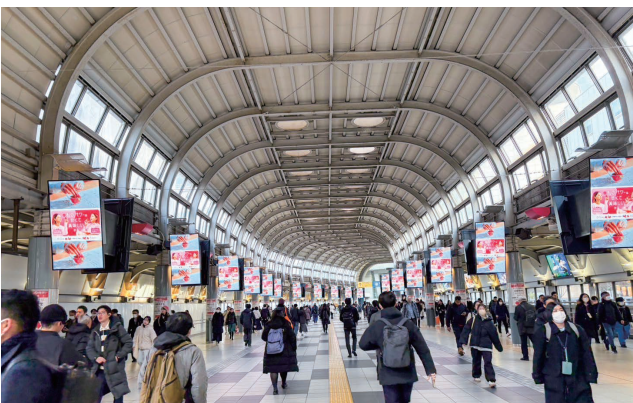
▲イチジク品評会の表彰を受ける富田さん

「静岡いちご」の認知向上へ
首都圏で「静岡いちご」消費宣伝を実施

静岡県いちご協議会(事務局野菜花卉課)は、首都圏を中心に「静岡いちご」の消費宣伝を実施しました。JR品川駅では、2月3日～9日まで、改札内の大型サイネージや駅構内の自由通路のモニターでプロモーション動画を放映しました。一日あたり約50万人が利用する同駅で「静岡いちご」のPRを実施し、首都圏での販売強化を図りました。また、2月16日～28日は、JR京浜東北線の1編成の広告ジャックを実施しました。



▲品川駅改札内に設置された大型サイネージ広告



▲自由通路のサイネージ広告



▲京浜東北線に掲出された広告

日本最大規模の花の展覧会 第73回関東東海花の展覧会

関東東海地域1都11県と花き関係6団体は1月31日から2月2日の3日間、東京都豊島区のサンシャインシティ文化会館で「第73回関東東海花の展覧会」を開きました。花への理解を深めるとともに、消費拡大を図ることが目的で、品評会やフラワードesignコンテスト、フラワードesignメントなどのイベントを行いました。

品評会では、バラやカーネーションなど全10部門に1、462点が出品され、品質や商品性を審査しました。本県からは181点が出品され、金賞12点、銀賞20点、銅賞31点が入賞しました。



本県の切花類金賞受賞者は次のとおり（敬称略、カッコ内はJA名と品種名）。

一般切花部門

- ・金3席 全国農業協同組合中央会長賞
桔川 日出男
- （JAとびあ浜松・ガーベラ「ソープ」）
- ・金5席 農林水産省関東農政局長賞
岡田 文江
- （JAとびあ浜松・スイトビー「ダイヤモンド」）

- ・金6席 静岡県花卉園芸組合連合会長賞
杉浦 浩文
- （JAとびあ浜松・ガーベラ「スピノフ」）

- ・金7席 日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞
渡邊 勇暁
- （JAふじ伊豆・トルコギキョウ

- ・金8席 日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞
磯 清彦
- （JAふじ伊豆・キンギョソウ

カーネーション部門

- ・金5席 日本花卉生産協会会長賞
田村 丞
- （JAふじ伊豆・ラスカルピンク）
- ・金6席 サンシャインシティ代表取締役社長賞
田村 雄太
- （JAふじ伊豆・ジュリア）

バラ部門

- ・金5席 静岡県知事賞
小林 一彰
- （JAしみず・ウェディングインバイト）
- ・金7席 日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞
小澤 弘
- （JA掛川市・ブロッサムピンク）

県産食材の認知向上へ 食材提案会に本会ブース を出展

みかん園芸部、茶業部、畜産部は1月22日、静岡市内で開かれた県産品の食材提案会に参加しました。

提案会は、県産食材の認知向上や販路開拓が目的で、県内の生産者ら14事業者が、首都圏の高級ホテル、レストラン関係者や外食の食品バイヤーなど21社へ県産食材をPRしました。

本会のブースでは、静岡茶「揉一ひとえ」や「特選和牛静岡そたち」、「静岡いちご」などの農畜産物を提案しました。また、県産食材を使用した料理も振る舞われ、参加者は交流を深めました。



東京都内で県産農産物をPR 静岡県産直マルシェを 開催

県は1月31日、東京都内の明治安田生命新東陽町ビルで「静岡県産直マルシェ」を開催し、JAハイナン、JA掛川市と本会が同ビルの従業員へ農産物の販売を行いました。

本会からは、茶、イチゴ、ミカンなどの約20品目を販売し、品評会に出品されたミカンの特別販売やレタス、セルリー、ミニトマトなどの旬の野菜セットなどが人気を集めました。



▲来場客で賑わう会場

流通開発課の取組を紹介
「ごちそうカントリー」番組収録と放送

2月9日放送のテレビ番組「ごちそうカントリー」（静岡第一テレビ・毎週日曜日昼11時40分放送）では、本会が担当回となり、「農産物輸出」をテーマに、県内JAや本会流通開発課の取組について特集しました。

番組では、JA大井川の生産者、山田恭平さんのほ場から輸出用イチゴの栽培や防除の方法などを紹介しました。

本会事務所からは同課の箕浦秀紀課長補佐が出演し、県産農産物の海

外でのニーズや、本会の輸出事業における販路開拓の取組などをPRしました。

また、視聴者プレゼントのコーナーでは、「紅ほっぺ」と「きらび香」の静岡いちご食べ比べセットを500件以上の応募の中から抽選で選ばれた5人に提供しました。

番組のアーカイブは動画投稿サイト「YouTube」の静岡第一テレビ公式チャンネルで視聴可能です。



▲清水港での撮影のようす



▲本会の輸出事業について紹介する箕浦課長補佐（右）



▲産地の取組を紹介する山田さん（左）



日 午前11時40分放送 Antenna TV 45% おいしい宝つくり暮らしよ。 静岡県のJA

県産和栗の生産拡大へ
クリ技術員養成研修会
 を開催

静岡県落葉果樹振興協会と柑橘果樹課は1月27日、掛川市内でクリ技術員養成研修会を開き、県内JAや県などの営農関係職員ら約30人が参加しました。

参加者は、栽培方法や果実の特性、病害虫管理などの講義や園地での剪定講習を行い、理解を深めました。本会は、茶園地の転換や遊休農地の活用として補完作物の導入を提案しており、栗も提案品目の一つとして県内での生産拡大に取り組んでいます。技術員向けの研修会は今回が初めてで、今後は同様の研修を継続的に実施し、生産者へのサポートを強化します。



▲剪定講習のようす

栽培技術向上のために
第45回静岡県中晩生柑橘品評会

静岡県柑橘振興基金協会と柑橘果樹課は2月12日、県農業会館で「第45回静岡県中晩生柑橘品評会」を開きました。

生産者の栽培技術向上が目的で、「はるみ」58点、「不知火」28点、「甘夏」56点、「ボンカン」35点の計177点が出品されました。県農林技術研究所果樹研究センターの伊藤直樹センター長が審査長を務め、県や市場の担当者、消費者代表ら17人が形状などの外観と糖度、酸度や食味を審査しました。なお、ボンカンの審査は1月23日に行いました。各品種の優秀賞受賞者は表のとおり（敬称略）。



▲優秀賞の展示

第45回静岡県中晩生柑橘品評会優秀賞受賞者

品 種	特別賞	J A名	氏 名
ボンカン	農林水産省 関東農政局長賞	J Aしみず	澤野 郁夫
はるみ	静岡県知事賞	J Aしみず	杉山 貴也
不知火	静岡県 経済産業部長賞	J Aふじ伊豆	田村 政一
甘夏	日本園芸農業協同 組合連合会長賞	J Aふじ伊豆	土屋 明浩



▲審査のようす

産地の課題解決へ
産官学技術交流事業報告会

静岡県産地技術課題解決研究会（事務局：生産振興開発課）は1月30日、県農業会館で令和6年度静岡県産官学技術交流事業報告会を開催し、J A、県、大学などからオンラインを含めて約100人が参加しました。

同研究会は、産官学技術交流を推進する組織として、本県産地の活力増強を目的に平成20年に発足。新技術の開発と現地での実証、営農技術情報の収集と発信を行っています。報告会では、県とJ Aから産地の課題解決に向けた取り組みや研究成果が示されました。

J A遠州中央は、水稲や大豆の高温耐性品種の現地適応試験結果につ



▲講演のようす

いて、水稲では福井県の育成品種「あきさかり」が、「コシヒカリ」と比べて穂数と籾数が多く、登熟歩合が高いことから多収性であったと報告しました。

J Aふじ伊豆は、緑肥を活用した水稲栽培と傾斜地の柑橘園地におけるドローンの農業散布について、J A大井川とJ A遠州中央は「生分解性マルチ」を用いたサツマイモ栽培の実証結果を報告しました。県からは、スマート農業技術の活用促進やアリモドキゾウムシの緊急防除の取組などを報告し、参加者は理解を深めました。



▲試食による高温耐性品種の食味比較も行った

営農資材課からのお知らせ

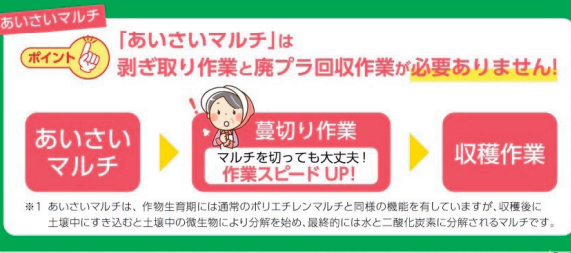
営農資材課ではJA 鹿児島県経済連と連携し、生分解性マルチ資材「あいさいマルチ」を提案しています。本誌6 ページ掲載の産官学技術交流報告会では、JA 大井川とJA 遠州中央よりサツマイモ栽培における「あいさいマルチ」の実証試験について報告され、省力化や生産性向上につながる資材として期待が高まっています。

▲グループ推奨品目！
環境にやさしい農業用生分解性マルチ

私たちの農業が出来る脱プラスチック



収穫時の「ポリマルチ」「あいさいマルチ」の作業性の違い



➡ 土中の微生物により水と二酸化炭素に分解するため環境にやさしい！

⚠ 使用上の注意

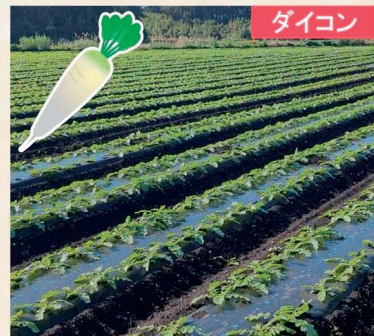
①製品の特性上長期保管ができません。保管する際は、高温・多湿を避け、直射日光の当たらない場所で保管して下さい。②作業中に、圃場で使用しないマルチは、直射日光が当たらないようにシートを被せるなどして保管してください。③ポリマルチと比べ、縦に裂けやすいため、展張時はポリマルチよりテンションを緩めに調整ください。特に低温時はマルチが硬化し、裂けることがありますので、ご注意ください。④土壌、気象条件により分解速度が異なります。⑤ポリマルチと比べ、透湿性がありますので土が乾きやすくなります。⑥土壌消毒とマルチの同時使用は避けてください。消毒剤で破けることがあります。⑦収穫後は飛散防止のため、速やかに土に数回すき込んでください。(推奨3回以上) ⑧有機農産物の生産に生分解性マルチは使用できません。(有機JAS規格による)

※購入後は必ず1年以内にご使用ください。

詳しくは動画にて
今すぐアクセス



あいさいマルチ 使用作物例



営農支援だより

作物・産地・営農・
技術・資材などの
情報をお届けします

隔年結果対策について

一 はじめに

柑橘では、一年ごとに着果が多い表年と少ない裏年を繰り返す隔年結果が発生することがあります。生産量が安定しないことは、消費にも影響しますので、安定した生産は、持続的な経営に必要な不可欠なことです。

二 隔年結果の発生要因

永年作物である柑橘では、着果過多が隔年結果の大きな要因になります。樹についた果実は大きな負荷です。葉で作った糖などの光合成産物や根から吸収した養水分を多く消費します。多くの果実がついた樹では、翌年の花を作るために必要な養分まで使ってしまう、翌年は花が少ない裏年となります。特に普通温州の高糖系品種は、果実に養分を集めるため、隔年結果しやすい傾向があります。

逆に着果が少なくなった場合も隔年結果を引き起こします。生理落果が著しく着果が激減すると、翌年に着果過多となる場合があります。

三 対策技術

多い花を減らす手段がありますが、少ない花を増やすことはできません。花が多いと予想された時が、対策を実施する機会です。時期ごとに対策が開発されています。園地の状況などにあわせ、いくつかの対策を組み合わせることで実施します。

・春までの対策

翌春の花が多いと予想される園地や樹では、収穫後から収穫約1か月後に植調剤のジベレリンが使えます。着花を減らし、樹勢の維持と新梢発生を促します。春の新梢が増えれば、翌年に花を確保することが出来ます。ジベレリンにマシン油乳剤や展着剤、ジャスモンメート液剤などを加用すると、低濃度で散布することが出来ます。

せん定を工夫することも春の時期の対策になります。強めのせん定を行い、着花が予想される枝を減らし、新梢発生を促します。ただし、通常では花がつかないような枝にも花がつくことがありますので、その他の対策と併せて行うようにします。

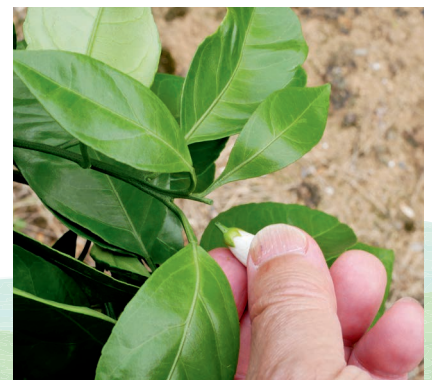
・開花前後の対策

新梢が伸び始めた時期の対策がスツコキです。前年の夏秋梢の葉を今年の新芽や蕾もろとも、こすり落としします。花が咲いていてもかまいません。処理した枝から新梢が発生し、来年に花をつける枝となります。成木では樹当たり20〜30枝が目安です。遅くとも5月中に処理します。



▲写真1 スツコキで蕾と葉を落とす

開花後半の対策には、有葉花摘蕾があります。青島温州などの普通温州は、新梢の先端に花がつく有葉花が多く発生します。有葉花は、品質のよい果実になります。5枚以上葉がある有葉花は、開花が遅く果皮が厚い食味の劣る大玉果になります。このため、蕾を摘み取って、来年の結果母枝となる



▲写真2 有葉花摘蕾で蕾を落とす

ようにします。

満開〜幼果期に行う対策には、部分全摘果があります。開花直後であれば、摘果剤を使用して樹冠上部や太い枝単位で処理します。落ちない果実もあるので、最後は手で摘果して仕上げます。

・開花期以降の対策

摘果では、上部1/3の果実をすべて摘果する樹冠上部摘果や太さ3〜4 cmの枝ごとに全摘果する枝と摘果しない枝を設ける枝別全摘果などがあります。樹を半樹単位で全着果と全摘果に分けて結果させる、片面交互結果という方法も研究されています。

柑橘果樹課技術コンサルタント

吉川 公規

「駿府の肉処 静岡そだち」からのお知らせ

本会直営焼肉店「駿府の肉処 静岡そだち」の情報をお届けします。

ふじのくに食の都づくり貢献賞を受賞しました!

「駿府の肉処 静岡そだち」は2月10日、「ふじのくに食の都づくり貢献賞」を受賞し、鈴木康友知事より表彰を受けました。県が主催する同賞は、県産農林水産物の需要創出と消費拡大等により本県の持続的発展を目指すため、静岡ならではの食文化振興に貢献する等模範的活動を実践している企業・団体を



▲表彰式の様子

表彰するものです。

「駿府の肉処 静岡そだち」では、「特選和牛静岡そだち」をはじめ、お米や野菜など静岡県産にこだわった新鮮な農畜産物を提供しています。ぜひご利用ください!



▲紹介ブースを視察する鈴木知事

テレビ番組「くさデカ」で紹介されました!

テレビ番組「くさデカ」(毎週土曜日18時30分からテレビ静岡で放送)の2月22日の放送回にて、「駿府の肉処 静岡そだち」が紹介されました。

「くさデカ」は県内で話題になっている飲食店を紹介するグルメ番組。放送では、お笑い芸人のトータルテンボスの2人が本会ブランドの「特選和牛静岡そだち」を使ったメニューをレポートしました。



駿府の肉処 静岡そだち

TEL : 054-251-4129

ランチ 平日11:30~14:00 (LO.13:30)

土日祝11:00~14:00 (LO.13:30)

ディナー 17:00~22:00 (LO.21:00)

住 所 : 〒420-0853

静岡市葵区追手町2-15MRK追手町2階



◀LINE公式
アカウント



◀HPはこちら

「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。令和6年度の第10回目(2月15日)の放送では、日向坂46の高橋未来虹さんと山口陽世さんが三島市と沼津市からJAふじ伊豆のブランド米「するがの極」を紹介しました。

番組では、ビデオメッセージで出演した裾野市の生産者、志村重利さんが「するがの極は粒が大きくふっくらしていて口当たりの良さが特徴です。冷めても美味しく、おにぎりやお弁当にも最適です。」と話し「するがの極」の美味しさをPRしました。



キャラバン隊 活動報告

ふれあいから学ぶ
接客研修



人事教育課は、令和6年11月から令和7年3月にかけて「令和6年度営業・接客研修(キャラバン隊)」を実施し、入会2年目の職員6人が参加しました。研修は、本会が運営する外食販売事業所「駿府の肉処 静岡そだち」での接客研修と静岡市中央卸売市場「市場まつり」での農産物販売や企業説明会の運営などを計2日間行いました。

氏名	所属
三浦 諒太	企画管理部 企画管理課
櫻井 栞	企画管理部 経理課
佐藤 寛太	みかん園芸部 販売情報センター
橋本 奈生己	東部支所 東部みかん園芸課
糟屋 和磨	食糧部 食糧課
松浦 友哉	畜産部 畜産課



あなたの
「その時」に
寄り添う



静岡県内のJA葬祭センターはこちらから



担当：くらし支援部 生活葬祭課 (TEL：054-284-9898)

